

《原 著》

心肥大を呈する各疾患の心筋脂肪酸代謝障害の 特異性についての検討

——¹²³I-BMIPP 心筋シンチグラフィを用いて——

磯部 直樹*	外山 卓二*	星崎 洋*	大島 茂*
谷口 興一*	飯塚 利夫**	金沢 紀雄**	若松 秀**
有坂 弘明**	鈴木 忠**	永井 良三**	井上登美夫**
遠藤 啓吾**			

* 群馬県立循環器病センター

** 群馬大学医学部核医学科内 群馬県心筋代謝画像検討会

要旨 肥大型心筋症 (HCM), 高血圧性心疾患 (HHD) および大動脈弁狭窄症 (AS) の肥大大心の心筋脂肪酸代謝障害の特異性について検討した。対象は心収縮能良好な HCM 28 例 [非対称性中隔肥厚 (ASH) 13 例, びまん性肥厚 (Diffuse-HCM) 7 例, 心尖部肥大 (APH) 8 例], HHD 15 例, AS 13 例, 健常者 (NC) 8 例である。方法は安静時 ¹²³I-BMIPP 心筋シンチ早期像 (15 分後) および後期像 (4 時間後) の planar 像と SPECT 像を撮像し, 他日に ²⁰¹Tl 心筋 SPECT 像を撮像した。¹²³I-BMIPP planar 像より心縦隔比と洗い出し率を算出した。各肥大大心での集積低下の頻度は ²⁰¹Tl に対し, ¹²³I-BMIPP 心筋 SPECT で顕著で, 後期像では 60% 以上の症例で集積低下を認めた。洗い出し率は AS で亢進した。欠損部位は, ASH が前壁および下壁中隔の接合部, Diffuse-HCM と HHD が下壁, APH と AS が心尖部に多い特徴を認めた。各肥大大心において心筋脂肪酸代謝障害を認め, 疾患特異性があった。

(核医学 36: 725-733, 1999)